



FSC 日本国内森林管理規格完成のご報告

FSC ジャパンが FSC 指針規格委員会に申請していた「日本国内森林管理規格」がこの度正式に承認され 2018 年 11 月 15 日に公開されましたので報告いたします。この国内規格の承認は多くの FSC ジャパン関係者が長らく待ち望んでいたもので、私たちにとって大変うれしい報告であります。また、その草案は多くの利害関係者のご参加を得て策定されたもので、これまでご協力いただいたすべての皆様に改めて御礼申し上げます。

国内規格の検討は 2001 年に開始され、これまでは 2007 年に策定された第 8 次草案が実質的に各認証機関で適用されてきました。その後「森林管理の原則と基準（国際規格）」の全面改定があり（FSC 原則と基準第 5 版）、さらにそれに基づき指標レベルでも国際的な標準指標が発効しましたので、この標準指標に沿って国内規格案の詳細な検討が続きました。国内の FSC 関係者を中心に作成された最初の草案作成以来、きわめて多くの利害関係者と真剣に意見の交換を行って内容を高めてきたとの自負があります。そしてこのたび正式承認となりました。

世界的には依然として森林破壊が続き、一方で「持続可能な森林管理」が言葉だけで上滑りしている状況下で、この FSC 日本国内森林管理規格は現場で何をすべきかを具体的に示しています。さらにこの規格は世界の森林を見据えての国内規格であり、世界的に何が求められているのか、また独特の気候・風土・社会を持ち、とりわけ自然災害が多い日本で、スギ・ヒノキに代表される単層人工林主体の林業やその他の森林をどう管理すべきかも含まれています。

私たち FSC ジャパンはこの国内規格とそれが体現する、FSC が目指す責任ある森林管理のいっそうの普及に努力いたします。また、この規格によって森林管理の現場がどのように改善されるかを見守り、さらなる課題を整理して次の改定に備えたいと思います。今後も FSC ジャパンへのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

以下にこれまでの経緯を簡単に報告いたします。

前述したように、国内規格の検討は 2001 年に始まりました。国内の FSC 関係者を中心に作成した草案を各利害関係者に配布するとともに、できる限り多くの利害関係者にお集まりいただき、会議を開催して検討・修正し、さらに森林の現場でフィールドテストを行って意見を聴取しました。フィールドテストは暖温帯から亜寒帯までに延びる日本列島の地理的・気候的条件を考慮し



て、林業地である宮崎県から北海道までをカバーして行いました。その際、豪雪地帯の石川県や内陸の長野県なども含めました。もちろん林業家、森林組合、公有林、企業など管理主体の違いにも配慮しました。

このような作業を繰り返し、2007年には第8草案が策定され、以来、国内では実質的に各認証機関で運用されてきましたが、その後前述したように国際規格の「原則」と「基準」が大幅に改定されて「FSC 原則と基準第5版」が発効したことや、「指標」レベルの国際標準指標が発効したことで国内規格のさらに詳細な検討が必要になり、再び多くの利害関係者との討論会の開催、公聴会の開催、ヒアリングやパブリックコンサルテーションの実施、フィールドテスト等を経て最終草案が完成し、ここに承認に至ったものです。

このように途中で議論を中断した時期もありましたが、再開後の検討にあたってそれまでに得た知見は大変貴重なものであり、その後の検討は円滑に進みました。この間、特に検討会議へのご参加等でご協力を頂きました方々、諸団体にはあらためて感謝申し上げます。

FSCの目指す環境・経済・社会のバランスを考慮した森林管理の理念、その具体的パフォーマンスを示す国内規格は、とかく木材生産のみを追求するあるいは国産材ならば良しとする林業界に貴重な一石を投じてきた意義は大きいと考えます。またこれまでにFSCの理念に賛同する多くの林業家・森林組合・公有林・企業などの皆さまがFM認証やCoC認証を取得されました。すべての認証取得者の皆様にも感謝し、今後もより一層の普及に向けて関係者一同全力を尽くしてまいります。

FSC ジャパン代表・規格策定グループ議長 太田猛彦